

人生ハンド仏句

第3号

H. 14. 6. 1

山寺部
蓮成集
玉真編

ちよっと表へ出て買い物にしても、「有難うござい
ます」と、心から言ってくれる人が少なくなりました。
確かに、求める品物を渡しその分のお金を受け取
るわけですから、当世風に言えば、ビジネスなんだ
から、別にお世辞を言う事はないかもしれませんが、人と人の
間、もっと広げて世の中というものは、何でもビジネスで割り切
れるものではない、と思います。

人間同士の暖かい心、わざわざ買物に来て下さったお客様へ
の、感謝の気持ちを忘れたら、もうそれは、人間の付き合いでな
く、機械を相手に行っている事と、同じになってしまいます。と述
べ、「ご先祖さまへの感謝の気持ちが、毎日の生活の基本である、
と私は思っています。」と結んでいる。

これは、信仰者としての誠に痛烈な現代批判である。本当は、
尊い人間が、人間であることを放棄して、冷たい機械になりさが
り、その機械と機械がぶつかりあって、火花を散らし、不快な音
をきしませているのが今日の姿ではあるまいか。

この世の中は「恩と恩とのからみあい」で、私達は生まれながら
にして、さまざまのものから不断に恩恵をうけている。中でも親
となり子となる因縁は一朝一夕のものではないのに、あえてこれ
を無視する身勝手さは、思いやりとか感謝とかいう大切な人間の
きずなをも切り捨てようとするものにほかならない。先祖を思い、
有ることが難しい（有難い）自分がこの世に存在し得ていること
に対する謙虚な反省と感謝から、はじめて人間の生き方がはじま
るのではないだろうか。

【ご先祖さまのおかげ】

真成寺住職 谷川 寛俊

歌舞伎の第十三世片岡仁左衛門は大の日蓮宗信者であった。そ
の先祖崇拜の念の厚いことは有名であるが、過日「忘れられてい
る先祖の供養」という本を一読した。

それは、私達が先祖さまあつての私達であるということから説
き起こし、先祖供養はなぜ必要かを説き、片岡家の先祖供養の次
第から、先祖供養のマナーに説き及んでいる。

そして、その結語の中で「人間は、ご先祖さまたちから今まで、
長い長い時間をかけて、こうして生き栄えてきているのであつて、
急にポコン、と生まれてきているのではない。

人間は、ひとりぼっちのように見えても、自分がここに、こう
して生きていられるのは、みんなご先祖さまのお陰だ、という感
謝の気持ちを忘れない限り、決して、ひとりぼっちではないので
す。